

2021年第97回香教組定期大会開催！

今だからこそ組合が必要！つながり合い学び合う大切さを確認

コロナ陽性者が出了場合、その対応は、保健所と協議しながら高松市教委から指示があつたと聞く。土曜日に陽性者が出了ところは、消毒作業のために教員が呼び出され、業務に当たつた。時間外勤務になる。いかがなものか。

コロナ禍は、誰も経験したことがない。高松市教委も判断できない。そのような中で、管理職も判断できない。各学校で判断することは良いことだが、管理職は迷う。時には、間違った判断をすることもある。そんな時こそ、組合員として提案しながら進めていくことが必要となつてくるのではないのかと思う。こんな時だからこそ、教職員で協議しながら進めしていくことが求められる。正しい対応ができるように、組合としても働きかけの必要性を感じた。

くないなら年休を取るよう」に」と指示。高松支部と校長交渉へ。校長は、「行き過ぎだつた」と謝罪した。組合に入つていてよかつたと思つた。

高松支部

児童で陽性者がいた。授業参観を予定していたが、教職員は、保護者を含め外部からの参観者を受け入れない方針となっていた。

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ
<http://kakyoso.com/>

2021年2月27日、香教組は穴吹学園ホールで第97回定期大会を開催しました。2020年度の活動についての報告と検討と2021年度の活動方針について話し合いました。

コロナ禍で半日開催でしたが、各支部・専門部からの具体的な報告がなされました。

三書支韻

活動報告をする大久保書記長

員会を通つて決まつたことだら実施すると回答。企画委員会で決まつたことは、職員会で討論できないのかと問うと、企画委員会で決まつたことだか決定事項だと言つた。校長に職員会の意義を問うと、伝達関だと答えた。そこで、企画員会はどのような制度のもと置いているのかと、校長に質状をだした。かなり待たされが、管理職と話し合いをした企画委員会は校長が置いていだけであり、決定機関ではない職員会は、話し合うことがでる」と回答。全員の前で、話しいの機関であることを伝えてしいとお願ひした。

坂出支部

消毒・検温

ラスを決めるというもの。校長会でも反対したそうだが、コンクールが発表会という形になつた。教育長だけやる氣があつた。反対が多かつたので、1年で終わつた。集団でことに当たらないと聞いてもらえないと感じた。

小黑板

高松市は、各校にタブレット端末が入り始めている。中規模校で3000万円。一大規模校で2億円の投資。一方、特別教室や特別支援学級に電子黒板はない。タブレット6台分で設置でき。お金の使い方が、おかしくないか?と感じる。すららドリルはZ会がらみだ。

位の変形労働時間制については、これまで、何度も県教委とやり取りしている。その中で実現したのが、年休の起算日が9月1日になつたこと▼現状はどうであれ、制度は整つた。次は、夏休みに年休を消化しきれるように条件を整えていくこと。そして、教職員が取得できる環境を「要求」することだ。「動けば変わる」を実感した。▼子どもたちにゆたかでゆきとどいた教育を保障するため、組合に集い、声をあげていこうではありませんか▼みんなの加入をお待ちしています。

定期大会では、現場の課題とともに、各支部・専門部の具体的な取り組みが多く語られた。▼印象的なのは、どの発言でも「組合に入つていて上かつた」「組合の大切さを実感した」ということが含まれていたこと。▼コロナ禍の中、これまで経験したことがないことに次々と起り、現場は混乱した。そうした中で、組合では、全國とつながり、情報を得、さまざまなかつさ」に応じた1年だつた。▼1年单

坂出支部

再任用教諭と講師の待遇の差が、待遇の差が大きい。人事委員会に要請している。会計年度任用職員の制度が導入され、講師の待遇が良くなつた。年間約50万万円の給与差がある。講師は扶養手当がつく。65歳過ぎても勤務できる。講師の待遇を下げるではなく、再任用教諭をあげて欲しいとやり取りしている。人事委員会は、県教委寄り。どのような結果になるかはわからないが、少しでも再任用教諭の待遇をあげて欲しいと思つていて。講師に主任勤務としても勤務と違いがある。

Y

青年部

2月7日にTANE（全国青年教職員学習交流集会）があった。今回はオンライン開催だった。青年には、学ぶ機会がたくさんあつたほうがいいと思い、みんなに呼びかけた。TANEに参加して、学び続けなくてはいけないと改めて思った。また、全国の人と繋がっているので、TANEに参加するにとって大切なと思つた。来年もあるから、各支部で声をかけて欲しい。

Y

交渉に参加した。毎年、東部と高松市教委には同じような要求項目を出している。限られた時間の中なので、これから内容を絞つて交渉をしていきたい。特に、東部事務所の場合には、高松市に権限が移っていることがあるので、東部にしか言えないことに絞つていただきたい。

0

臨時教職員対策部

30代以上

上の講師が、ほとんど採用試験に合格していない。長い間、講師をしている人が合格できるように、本部としての働きかけて欲しい。

M

高松支部の執行委員になり、他校のことがよくわかつた。様々な情報をもらつたことで、新規採用2年目を心強く過ごすことができた。交流学級の担任として、特別支援学級や不登校の生徒のことなど、様々なことを相談できたので大変よかったです。一番よかつたことは、皆さんと一緒にいること。いろいろなことを学んだ。学校・教育のあり方などを出し合う中で、現場で「おかしいな」と思うことが、「教育界では普通のことなのか」と思つていたら、組合で話すとやっぱりおかしいことだということがわかつた。組合のみなさんは変なことは変だと思つてていることが心強かつた。学ぶことは大切。

新卒が80%の残りの20%のうち80%が20代。今年はまたまだと言われたが、この状態が続くのだとしたら、不安でたまらない。ぜひ、運動を進めてもらいたい。

G

女性部

コロナ禍で集まる場がなかつた。学校再開後、仕事量が増える中で、個々で頑張つてもしんどい。7月に執行委員会がやつとできた。おしゃべりしながら、前に進んできた。今年の活動のメインは、少ない人数でも集まり学習すること。三豊で学習会を開いた。

少しでも組合員と話をして、つながりを強めたいと考えた。女性部独特的のとりくみ。学んだり、食べたり、買い物したり。とてもいい一日だった。コロナ禍であつてもなくとも、「呼びかけても来ないよ」と言つていてる場合ではない。女性部が福を運ぶいうとりくみをしていきたい。次は大川へ。

1

1年単位の変形労働時間制は導入しないこと。女性目線に立つた勤務のあり方について交渉した。子育て加配、産休の先読み加配を要求、現場のことを伝えた。「市町教委と連携しながら、教員配置を適切にしていきたい」という回答があつた。これからも引き続き要求していきたい

W & M

臨時学校支部・陸野部

「寄宿舎署名」にとりくんだ。1584筆。コロナ禍で署名活動が大変だつた。その中で

も、多くの人の協力があつた2021年度も採用選考試験が行われ、新規採用者がいる。2012年以前は、採用選考試験は行われておらず、非常勤のみで、寄宿舎そのものの存亡の危機があつた。寄宿舎の存続がかかつっていた。2012年から署名活動を初め、正規採用者が実現した。毎年の運動の成果が、この8年間の実績に繋がつていて。諦めずにコツコツと続けていくこと、運動することの大切さを香教組があるからこそできているのだと実感している。今後も、続けていきたい。

I

特別支援学級には、教師用の教科書が配布されなかつた。コピーで対応をと言われた。掛け合ふと、特別支援学級用の教科書の予算がないと言われた。他校は、きちんとある。人権侵害ではないかと思う。

W

中2診断テストの国語科の問題に、聴覚障害児への差別につながるような問題場面の切り取り方や設問があつた。現場の教員からの指摘があり、市教委へ報告した。合わせて、問題を作成した

進路指導部へ質問状を出している。次年度、過去問として対策テストにも使用されることから、使用の中止を求めている。

I

高松支部

4回交渉。高松市教委も少し聞く耳をもつてきたなという感じがした。若い人にも来てもらいたい。学校を出にくいといふのが実情。次年度は、若い先生に呼びかけていきたい。

長年要求していた夏休み短縮の撤廃が実現した。1年単位の変形労働時間制導入の布石ではないかという懸念もある。今後、様子を見ていかなければならぬ。2月の交渉では、教育長は、1年単位の変形労働時間制の導入は多忙化解消にはつながらないと明言した。導入については、最終的には個人任せ。難しいところ。市教委は、超過勤務時間を45時間以内に收めなければ変形労働時間制を導入できないといった。そうなれば、働き方改革が進み、制度の導入の必要はない。大いに宣伝したい。

M

民研では、感覚過敏症の児童に対しての対応についてを校長交渉した。学校側は、児童の立場に立つて対策を取つてくれた。忙しい中だが、動けば変わるという実感がある。

若い人には、民研に入り、学んでほしいと思っている。

H

講師には臨時教員免許は発行されない。特別支援学級の指導は無免許。法に従つて出せばよいこと。県内各地で起つてのこと調べて、執行部で対応してほしい。G&I

各市町教育委員会が挙げてきたものだけで判断しているのではないか。実態とはかけ離れている。退勤したことにして仕事をする。年休を出して働く。「1年単位の変形労働時間制は、働く時間を伸ばすだけなんや」とピントのずれた校長がいる。見えない残業が増えようとしている。組合として理解した上で、働きかけ、伝えていく必要がある。

S

